昭和43年度土木学会全国大会開催に当って

土木学会全国大会実行委員会
委員長　佐々木　正　久

初秋の候，会員各位におかれましては，ますますご健勝のことと，およろこび申し上げます。さてすでにご承知のことと思いますが，今年度からは，通常総会と年次学術講演会が分離され，通常総会は本年5月 28 日東京で実施され，年次学術講演会は，すでに発表されましたとおり第23回年次学術講演会として本年10月11日より名古屋市において開催されることになりました。

今年度からは，新機軸を打ち出すために，特別講演会，部門講演会，ＰＲ講演会をあらたに実施し，従来の見学会，懇親会とをあわせ「土木学会全国大会」と称し，各方面のご協力のもとに，それぞれ準備をすすめております。土木学会全国大会が，中部地方で開催されますのは，昭和 36 年以来7年ぶりでありますが，その間中京を中心とする当地方の成長は，日をもって刻むといってよいほどの進展を示しております。

まず交通網体系の整備について見ますと，全国にさきがけて早くもハイウエイ時代を迎えています。すなわち，名神高速道路が 40 年6月に完成したのに続いて，東名高速道路が本年4月すでに部分開通をしており，来年3月ごろ全面開通の予定で現在鋭意施工中であります。さらに，昨年度より中央道および北陸道が着工されるとともに，近畿道，東海北陸道などの計画についても計画線の調査が進んでいます。また，国道の整備については，一次改築はほぼ達成し，逐次二次改築の推進に重点を向けつつあります。また鉄道についての最大のトピックであった東海道新幹線も39年10月に開通し，ハイウエイとあわせて首都，中部および近畿三圏間の時間距離をいちじるしく短縮し，メガロポリス化への強力な布石となっています。つぎに河川の開発については，雨量の豊富な中部山岳地帯を擁しておりますので，多目的ダム，あるいは，電源開発ダムの建設が依然として活発に行なわれています。すなわち，木曽川，天竜川および矢作川，豊川などの総合開発が着実に進捗しており，いちじるしく増加しつつある都市用水などの需要に備えつつあります。なお，三河地方開発の根幹である豊川用水事業が本年完成したことも記さねばなりません。また，河川事業については，狩野川，豊川両放水路の完成を始めとして，国土保全の水準は漸次向上しつつあります。港湾については，伊勢湾，三河湾，富山湾などの整備と併行して，臨海部土地造成も活発に進められています。このように，当地方は交通網体系の整備を始めとして，産業あるいは生活の基盤整備が着々と進行しつつあります。さて，これを公共投資額の面から見ますと，中部圏における最近6ヵ年間の累計において，全国総額約9兆円の約 21% に当り，ほぼわが国の平均水準にあるといえます。その中で特に東海沿岸部の公共投資は，先にも述べたようにきわめて活発であって，圏内の総投資額の中で約70%を占めています。そして，これは逆にいえば，その他の地域の開発はまだきわめて低位にあるといわざるをえません。しかも中部圏はわが国の中央部に位置し，かつ首都圏，近畿圏の中間にあって直接境を接しており，面積においては両圏に対してそれぞれ約1.5倍，2倍という広大な地域を擁しており，そのすぐれた自然的，経済的条件は全国的に見てきわめて成長の高い地域として，その将来の開発が期待されているのです。したがって，中京地区を中核として東西および南北の交通体系の整備を促進し，その骨格を確立するとともに，豊富な水資源を積極的に開発利用することによって，京浜および阪神地域における産業，人口の過密化を吸収しつつ，国土の均衡ある発展を促進するための可能性を十分発揮するようもっとも効果的な“中部圏づくり”を推進しなければなりません。幸いにして，本年6月中部圏開発整備基本計画が政府決定されて，長期的開発の方向が明示されたことはまことに適切な措置であると考えます。そしてそれと同時に，この計画を推進するための主役的役割を果たさねばならないわれわれ土木技術者の責任もきわめて重大であると考えます。この意味におきまして，当地方の開発の計画ならびに事業の状況を新しい観点より眺めて頂くよう，会員諸氏多数のご参加をお願いするとともに，当支部を鞭韃，激励して頂ければまことに幸いと存じます。